

## 学び続けるということ

千代中学校 三年 小林 優斗

「Can I help you?」

京都に修学旅行で訪れた際、飲食店で傘の置き場所が分からず困っていた外国人に、こう呼び掛けた。無事に傘を所定の場所に置き、感謝の気持ちを表してくれた外国人と、助かつたよと私に握手を求めてくれた店主。英会話で結んだ二人の笑顔は、私の修学旅行に大いなる充実した思い出をもたらしてくれた。

私は英会話が好きだ。ひよつとすると日本語よりも好きかもそれない。両親は英語がどちらかと言えば苦手な方で、押しつけられることが無く、自分の意思で学んできた。海外に思いを馳せながら、いつか日本とあらゆる国々の人々を結ぶ架け橋となるような仕事をしたいと思うようになつた。そしてその思いが次のステップにつながり、イングリッシュユキヤンプやスピーチコンテストへの参加など、学びから「挑戦」へと自分を一步成長させることができた。

学び続けるということ。私にとっては親から言われて踏み出すのではなく、自発的に勇気を出して踏み出し、継続していることに意味があると感じている。自らが決めて動き出したことだから、たとえ上手に事が運ばなくとも納得がいくし、うまくいけば、自信と喜びにつながり、自分の今後の人生の礎ともなる。

私は人見知りで、大人数の場では常に緊張していた。周囲にはそのような姿を見せたくないと必死に自分を奮い立たせ、無理に明るく振る舞つていた。その結果、極限まで疲れ、極端に落ち込んでいた。周囲の人には、そんな私を真面目で責任感が強い人だと言つた。その期待に応えようと努力した。でもとても苦しかつた。そんな時、親友がかけてくれた言葉「君らしいね。」という一言で、自分はもつと自由で自然体で会話を楽しみたいと気づいた。それからは、自らの意思で、ありのままの自分を受け入れて話すことを楽しんでいる。気づきから一步を踏み出し、学び続けたことで人生の基盤ができた。

これからも私は英会話を学び続けていく。そしてそれと同時に学び続けて得た知識や経験を将来、地域や社会に還元していきたいと考えている。私が生まれ育つた小田原は、小田原城や梅林などの名所旧跡のほか、新鮮な海の幸、かまぼこなど食も魅力が満載である。訪日する外国人に学生ならではの若い感性でガイドをし、魅力を発信できたら、地域に還元できるのではないかと感じている。

また、日本で働きたい外国人に、日本語教師という立場で貢献できるのではないか。文法やニュアンスを英語で説明できることは、理解を深めてもらう上で非常に有効であり、複雑な日本語の概念も、英語で例えたり、対比させたりすることで、より分かりやすく伝えることができると思う。結果として、日本文化によりスムーズに溶け込むお手伝いにつながり、社会に還元できるのではないかと感じている。

学び続けることは、単に知識を増やすだけでなく、未来を切り拓いていくための原動力だ。学校での学びはもちろん、日々の出来事や交流からも多くのことを吸収でき、視野も広がり、人生を豊かにしてくれるだろう。やがては地域や社会に貢献するための大きな力になると確信している。私の学びも、将来様々な場面で役立っていくだろう。それが通訳ボランティアなのか国際的なビジネスなのか分からないが、わくわくする気持ちが湧き出てくる。

自らの成長がより良い社会を築く一助となるよう学び続けていきたい。